

令和5年6月30日

学校法人 桑園学園  
札幌情報未来専門学校  
自己評価委員会  
学校関係者評価委員会

## 令和4年度 学校関係者評価委員会 議事録

1. 日 時 令和5年6月28日(水) 16:45~18:00

2. 場 所 札幌情報未来専門学校 会議室

3. 開催名 令和4年度 学校関係者評価委員会

4. 対象学科 ITシステムエンジニア学科

5. 出席者

・委員

業界団体関係者	大野 俊 様
業界団体関係者	小賀 聡 様
卒業生代表	英 大典 様

・司会・進行

札幌情報未来専門学校 校長理事	小林 仁
-----------------	------

・記録

札幌情報未来専門学校 マネジャー	北國 裕太
------------------	-------

6. 議 事

(1) 令和4年度自己評価について

- ・自己評価アンケート集計結果
- ・問題点の抽出および改善・意見

(2) 次年度動向について

- ・入学者の IT システムエンジニア学科(3年課程)の志望伸長について

(3) その他 ご意見等

7. 討議内容

以下の通り

以 上

## (1) 令和4年度自己評価について

### 1 教育理念・目的 における問題点

#### ◆校舎の老朽化に関する中長期的な計画について

##### 《改善・対策》

- ・築50年を超える本校舎の耐震テストを実施し、具体的な計画を策定する。耐震改築や取り壊し等の方策を検討していく。

### 2 学校運営 における問題点

#### ◆業務システム老朽化に伴う更改対応について

##### 《改善・対策》

- ・人材不足により新システムへの移行は設計工程で滞っている。講師の不足にも関連するが、早急な教職員の人材確保のため採用活動を行っている。有能な人材については不足感が強いが、粘り強く採用活動していく。

### 3 教育活動 における問題点

#### ◆人材不足による既存講師の業務負担の増加について

##### 《改善・対策》

- ・毎年カリキュラム会議により業界ニーズや学生の特色に応じたカリキュラムの検討を行っているが、講師側の対応が不足している。企業連携を強化して、実務を教えてくれる技術者の確保および効果的なカリキュラムの構築を行う。

### 4 教育成果 における問題点

#### ◆障害や精神疾患を持つ学生の対応について

##### 《改善・対策》

- ・ここ数年間で特に増加傾向にあるため、外部研修受講等による定期的な職員への教育、就労支援制度の活用等を行い、学校としてどのようなサポートができるか見直しが必要。

### 5 学生支援 における問題点

#### ◆学生の身体的・精神的不調時のサポート体制について

#### ◆ひとり親家庭の増加について。

##### 《改善・対策》

- ・医務室の設置など法令を満たしているが、メンタルにおける学校医がない状況である。学校保健法に基づき、対応を考えていく。
- ・ひとり親家庭が増加している。奨学金等の経済的支援制度の利用や、担任を中心とした本人の生活指導、家庭と連携したサポート体制を構築する。

## 6 教育環境

◆業界ニーズに合わせた教育設備の構築について

◆Web、CG等のクリエイター職種ではMacPCが必須となっているが、導入は検討しているか。

《改善・対策》

- ・当校は、Windows主体にて、実習室を組んでいるが、今後の計画として新実習室としてMacPCも含め検討していく。また、デザイン系科目を含めた新カリキュラムを検討している。

## 7 学生の募集 における問題点

◆学生募集活動について

《改善・対策》

- ・今年度、職員を1名採用し、進学相談会やWeb・SNSを活用した情報提供の効率化を行っている。
- ・在籍数に合わせ、適正な教職員の採用を常時検討している状況である。

## 8 財務 における問題点

◆インボイス制度、電子帳簿保存法への対応について

《改善・対策》

- ・各部署の担当者に対するインボイス制度研修会を検討している。

## 9 法令等の遵守 における問題点

◆法令等の遵守と適正な運営について

《改善・対策》

- ・法令等のセミナーへの参加、適切な個人情報保護のためのルールや保存方法の見直しを行う。
- ・正常な学校運営のため、漏れがないよう各部署の関係する法令を認知し順守していく。

## 10 社会貢献

◆学校の教育資源や施設を活用した社会貢献について

《改善・対策》

- ・道内中学校の職業体験講座受入れを毎年実施しているが、高校教員向けセミナーについては、新型コロナの影響により実施出来ていない状況。今年度はコロナの影響も少ないため、セミナー再開を検討していく。また、学生ボランティア等の地域貢献についても今後積極的に実施する。

### (2) 次年度動向について

◆入学者のITシステムエンジニア学科(3年課程)の志望伸長について

《改善・対策》

- ・現在、入学見込み数は昨年度並みに推移しているが、出願の3年課程が多くなっている。この傾向は、次年度も続くと予想される。修学支援制度の認知向上や大学4年課程からの志望変更者が原因と考えられる。今後、広報による2年課程認知向上や、3年課程の定員の検討などを行っていく。

(3) その他

- ・特になし

以上